

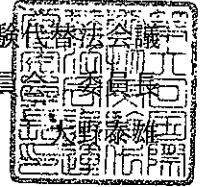
平成 19 年 6 月 12 日

〒173-0003

東京都板橋区加賀 2-11-1

帝京大学医学部 御中

第 6 回国際動物実験代替法会議
運営委員



第 6 回国際動物実験代替法会議への参加依頼

拝啓 梅雨の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

御存知のこととは思いますが、世界的な動物福祉運動の高まりに応じ、平成17年6月に「動物の愛護及び管理に関する法律」が改定され、動物実験においても代替法の利用 (Replacement)、動物使用数の削減 (Reduction)、動物に与える苦痛の軽減 (Refinement) という 3 Rs の原則が組み込まれました。これに応じて昨年、動物実験等を実施する各機関等を所管する行政機関（文部科学省、厚生労働省等）の策定した動物実験等の実施に関する基本指針等（「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」平成18年6月1日 文部科学省告示、「厚生労働省における動物実験等の実施に関する基本指針」平成18年6月1日 厚生労働省通知）が作成されました。また、動物実験を適正に行うための実験動物の取扱いに関しては、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（平成18年4月28日 環境省告示第88号）が施行されています。一方、学術会議においても平成18年6月、各機関等において科学的に適正な動物実験が実施されるよう自主的に機関内の規程等の策定を促すガイドラインを作成しています。このように医学、生命科学の教育、研究ならびに試験に際して必要不可欠な動物実験を行うためには、動物実験を実施する研究者が科学的合理性に基づくとともに、動物の福祉に配慮して実験計画を立案しなければ社会の同意を得ることができません。動物実験をめぐる環境は劇的に変化をしている状況です。

さて、このような状況の中、この度、ポスターを同封致しました第 6 回国際動物実験代替法会議 (<http://www.ech.co.jp/wc6/index.html>) が平成 19 年 8 月 21 日～25 日にかけて、ホテルイースト 21 東京（東京都江東区）(<http://www.hotel-east21.co.jp/english/index.html>) で開催されます。国内外から専門の研究者約 1,000 名が集うと予想されています。会議では、動物実験の 3Rs に関する最先端の研究発表や意見交換等が行われる予定です。会議 2 日目の 8 月 22 日（水）には環境省の法案や学術会議のガイドライン作成に関与した先生によるセッションが企画され、最終日の 8 月 25 日（土）には同封のリーフレットにも示します市民公開講座「実験動物のためにできることー研究の現場からー」の開催も予定されております。

貴大学におかれましても、本会議に動物実験担当者のご出席を促して頂き、この機会に動物実験を巡る国内外の最新情報を入手し、適正な動物実験実施に役立てて頂きたいと願う次第です。貴大学関係者のご参加をお待ちしております。

敬具

6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences

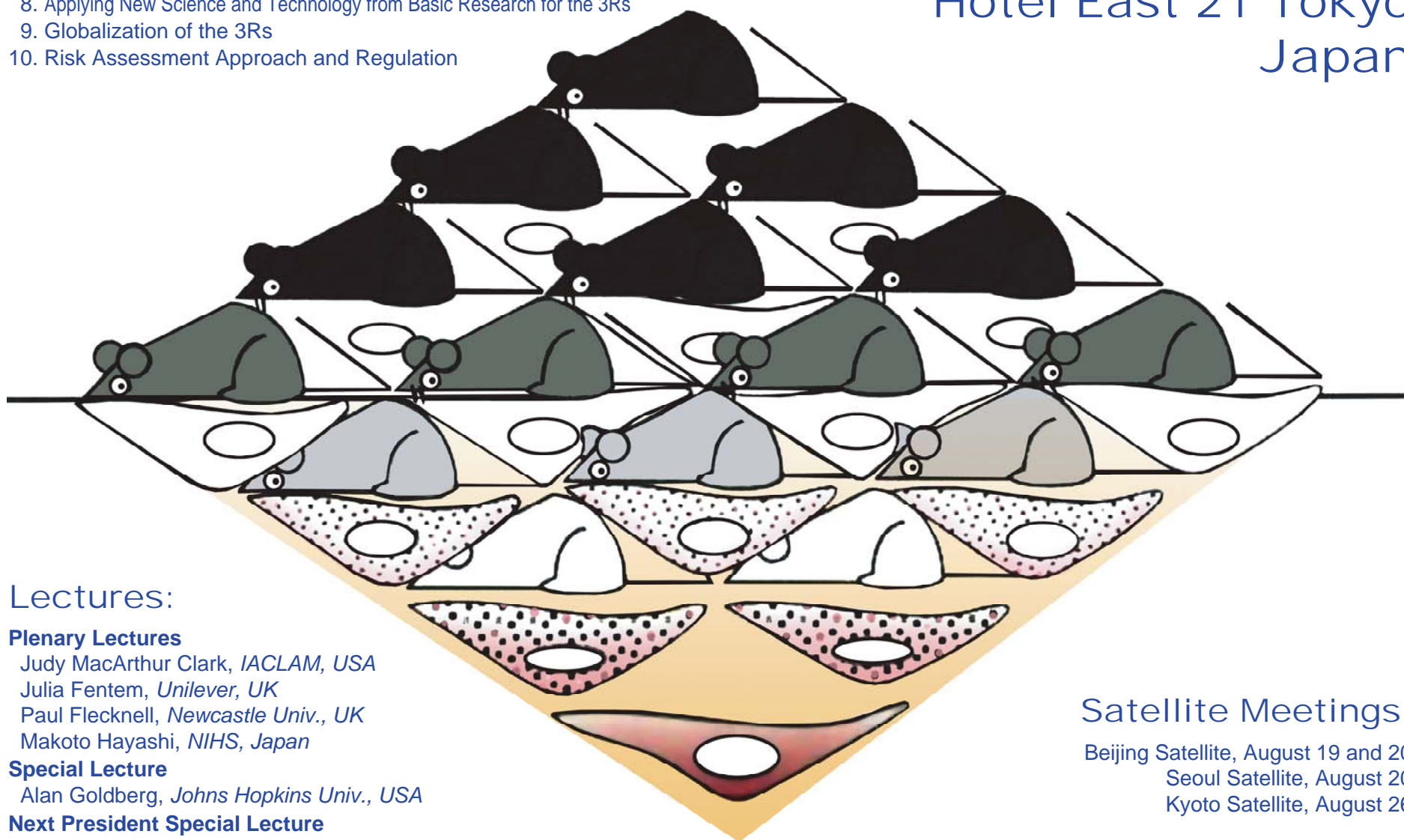
— Review progress made toward the 3Rs —



Symposia on:

1. Animal Welfare
2. Moral, Ethical and Cultural Issues, and Public Policies of Animal Usage
3. The 3Rs in Education and Training
4. Knowledge Management and Information Services
5. Toxicology/Validation
6. Ecotoxicology
7. The 3Rs in the Development, Production and Quality Control of Biologicals
8. Applying New Science and Technology from Basic Research for the 3Rs
9. Globalization of the 3Rs
10. Risk Assessment Approach and Regulation

August 21-25, 2007
Hotel East 21 Tokyo
Japan



Lectures:

Plenary Lectures

Judy MacArthur Clark, *IACLAM, USA*
Julia Fentem, *Unilever, UK*
Paul Flecknell, *Newcastle Univ., UK*
Makoto Hayashi, *NIHS, Japan*

Special Lecture

Alan Goldberg, *Johns Hopkins Univ., USA*

Next President Special Lecture

Herman Koëter, *EFSA, Italy*

Animal Welfare Memorial Lecture

Michael Balls, *FRAME, UK*

Open Symposium for Citizens

Satellite Meetings:

Beijing Satellite, August 19 and 20
Seoul Satellite, August 20
Kyoto Satellite, August 26

Congress Presidents
Yasuo Ohno and Horst Spielmann

Under the Auspices of

Japanese Society of Alternatives to Animal Experiments (*JSAAE*)
Alternative Congress Trust (*ACT*)
Science Council of Japan (*SCJ*)

<http://www.ech.co.jp/wc6>

実験動物のためにできること — 研究の現場から —

日時 2007年8月25日(土) 14:00 ~ 17:00

場所 ホテル イースト21東京 1階 ホール



参加費無料

参加対象：一般市民(中学生以上) 参加方法：当日受付(13:30~)
直接会場にお越しください。事前申込みはありません。
満席(定員400名)の場合、入場をお断りする場合がございます。
なお、海外の講演者には通訳がつきます。

プログラム

 司会：二宮 博義(麻布大学)・山口 千津子(日本動物福祉協会)

14:00	開会挨拶 大野 泰雄 (第6回国際動物実験代替法会議・会長、国立医薬品食品衛生研究所)
14:10	講演 1 「実験動物の福祉を考える」 Andrew Rowan (国際動物実験代替法会議連合)
15:00	講演 2 「動物実験が許される条件とは？」 礒島(ぬでしま) 次郎 (科学技術文明研究所)
15:20	休憩
15:30	講演 3 「動物実験代替法研究の現状」 Alan Goldberg (動物実験代替法センター、JohnsHopkins 大学)
16:20	講演 4 「日本の研究者がしてきたこと」 鍵山直子・野村達次 (実験動物中央研究所)
16:40	パネルディスカッション
17:00	閉会



主催 内閣府日本学術会議、日本動物実験代替法学会、国際動物実験代替法会議連合
共催 日本トキシコロジー学会、日本実験動物学会、日本環境変異原学会、日本実験動物環境協議会、
International Union of Toxicology、日本組織培養学会、日本実験動物医学会
協賛 日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、地球生物会議、動物実験の廃止を求める会、
動物との共生を考える連絡会
後援 厚生労働省、環境省、東京都、経済産業省、文部科学省 (以上、すべて予定)

お問合せ先



第6回国際動物実験代替法会議事務局

〒158-8501 東京都世田谷区上用賀1-18-1 国立医薬品食品衛生研究所・新規試験法評価室(JaCVAM)

TEL: 03-3700-1141 / 03-3700-9874

FAX: 03-3700-9874 E-mail: h-kojima@nihs.go.jp

<http://www.ech.co.jp/wc6/>

